花の手入れの基本

花屋さんの店頭には、切り花、鉢花、花壇苗など、四季折々さまざまな草花が並びます。
日ごろのお手入れで草花に直接触れながら、より長く楽しみましょう。

◆花束などをいただいたら・・切り花を長持ちさせるには

プレゼントされた花束は、花瓶に生けるまで清潔な水につけておきましょう。そして、生ける時には「水揚げ」をします。

最も一般的な方法は、水の中で茎を切って切り口を新しくする「水切り」です。清潔な水の中で、切れ味の良い刃物を使い、茎が潰れないよう、切り口が斜めになるようスッパリと切ります。水中が難しい場合は切ったら直ぐに水につけます。

このほかにも、茎を焼く、熱湯に浸すなどの方法もありますが、草花によって向き不向きがあるので注意してください。

花瓶に水をたっぷり入れ、水につかる葉は取り除き、できるだけ涼しい場所に飾ります。エアコンの風や直射日光が直接当たる場所、ストーブの近くなど温度が変化しやすい場所は避けましょう。

花瓶の水は毎日取り替えます。茎に「ぬめり」があれば洗い流します。草花の勢いや茎の切り口の様子を見て、必要であれば再度水切り（切り戻し）をします。

◆鉢植えなどを楽しむには

花の咲いている鉢植えを購入したら、すぐにひと回り大きな鉢に植え替えると、株も大きくなり、元気に育ちます。一方、同じ性質の花なら、コンテナに寄せ植えして、玄関やテラス、ベランダなどに飾ると色とりどりの花が楽しめます。

また、種や苗から、きれいな花を咲かせるには、土や肥料、水やりなどの基本を知り、日ごろから手入れを欠かさないことが大切です。

■草花に合わせた培養土

品質表示を確かめ草花に適した
ブレンド済み用土を利用

鉢植え用の土は、水はけ、通気性、保水性、保肥力などのバランスが良く、清潔であることが大切です。初心者は、赤玉土や腐葉土など何種類かの基本的な土を用途に応じてブレンドしてある市販の培養土が使いやすいでしょう。

■肥料・薬剤の種類

「肥料入り」培養土なら元肥は不要

肥料には、魚骨など動植物を原料とする有機質肥料と、窒素・リン酸・カリなどを含んだ化成肥料があります。配合肥料は両方を混合したものです。

有機質肥料は土中の微生物によって無機質に分解され根から吸収されるので効き目は遅いのですが１か月以上長持ちします。一方、化成肥料は水に溶けるとすぐに根から吸収され即効性があるので追肥に適しています。

肥料の種類や与えるタイミングは花によって違います。販売店で相談するとよいでしょう。

■上手な水やり

季節を問わず「鉢の表面の土が
乾いたらたっぷりと」が基本

花壇の水やりは、早朝から日が昇りきる前の午前中が良いでしょう。日中の暑さでコンテナなどが乾く場合は、夕方の水やりも効果的です。昼間の暑い時間帯は水が熱を持ち、根や葉が傷む原因になるので避けてください。

鉢植えの場合、表面の土が白く、鉢土が乾いてきたら鉢底から水が流れ出るまでたっぷり与えます。

ただし、鉢の受け皿の水は必ず捨てます。そのままにしておくと、常に根が水に浸されて呼吸できなくなるため根腐れの原因となります。

■日照と温度管理

草花の性質に合わせた日当たりや
寒さ対策を

草花には、日当たりを好む、直射日光で弱ってしまう、寒さに弱い、乾燥を好むなど、それぞれ性質があります。

日当たりを好むものなら５～６時間、日陰でも育つものでも２～３時間の日当たりは確保したいものです。

鉢植えの花も、庭やベランダなどの日当たりの良い屋外に置くことが基本です。室内に飾っている鉢物も、日中には屋外で日光浴させるとよいでしょう。

夏のベランダは照り返しで熱くなるので、木製のすのこや花台に載せて輻射熱を遮断しましょう。日の当たる壁面にラティスを張るのも効果的です（高層階では強風に注意しましょう）。